



南三陸町長 佐藤 仁

東日本大震災の発生から一年九か月が過ぎ、二度目の新年を迎えました。震災で大切なご家族やご親族、ご友人を亡くされた皆様、そして、町内外の仮設住宅やみなし仮設にお住まいの皆様におかれましては、心から新年を祝うというお気持ちになられてはいないものとご推察をいたしております。

どうか、年の始めのこのときを、故人を偲び、疲れたお体とお心をしぼしの間、休ませる期間としていただけたらと思っております。

復興元年と位置付けた昨年は、「南三陸町震災復興計画」の基軸である「住まいは高台に」を早期に具体化すべく、防災集団移転事業や災害公営住宅整備事業の実現に向け、

復興の道を歩む

各地区の皆様方との話し合いを重ねてまいりました。その結果、多くの地区において、用地確保のめどが立ち、用地の造成に着手できることとなります。

震災から三年目となる本年は、高台移転に関する各種事業の具体的な動きを、形として町民の皆様に見せられるよう取り組みを加速してまいります。

町には、ご承知のとおり、高台移転事業等の生活基盤の再構築といった取り組みに加え、水産業をはじめとした産業基盤の復旧、がれきの処理、道路交通網の復旧、教育施設の整備、病院の再建、そして、防災計画の見直しなど多くの課題が山積をいたしております。

本年は、これらの課題を、一つひとつ解決し、具現化していくことで、町民の皆様に、復興への希望、さらには、町の未来を見つめていただけるように全力で取り組み、安全に安心して暮らせるまちづくりに努めてまいり所存でありますので、町民各位の特段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

震災から幾日が経とうとも、犠牲となられた方々のことを忘れことはありません。本年も、あの日を胸に刻み、町の復興にまい進してまいります。

結びに、平成二十五年が、町民の皆様にとって、将来への展望が開ける年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭の挨拶といたします。

共に歩もう町勢復興への道

南三陸町議会議長 後藤 清喜



東日本大震災から間もなく一年十か月。町民の多くがまだ仮設住宅や借り上げ住宅での生活状態にあるなか、年が明けた新年でありますので、お祝いをする言葉は慎むべきかもしれません。暦の節目でもあり、何とか年を越せたことに对しささやかに新年のご挨拶を申し上げたいと思います。

このような生活を送ることになるなど考えもしなかった、仮設住宅や借り上げ住宅での生活、あるいは家族と離れ、さらには南三陸町から離れて生活せざるを得なくなった結果、不慣れた環境の中不自由な生活を強いられており、先の見えない状況に置かれている事実が変わりありませんが、希望を持ち続けて過ごしてい

ただきたいと考えます。

振り返れば東日本大震災はまさに日本の、また世界の歴史に最悪のことが起きたこととして永久に刻まれることとなってしまいました。その震源地に生活社会を築いていた私たちは、一瞬にしてその歴史をも含めて総べてを奪われてしまったのであります。

町行政も未曾有の事態にあたり、懸命に町民の支援及び災害復旧・復興に対応してまいりましたが、単独の自治体が完結できるような規模ではなく、国・県、全国の自治体、数多くの団体の物心両面からの支援をいただきながらここまで乗り切ってきたところであります。しかし試練はこれからも続くこと

が予想されます。子どもたちの養育・教育・療養中の方への支援、高齢者介護、雇用の問題など、何よりも今後に対する不安等課題は数多くあります。

新年を迎えるにあたり本町議会といたしましては、自らの議会活動の刷新を図り、皆様のご指導を仰ぎながら町民代表の自覚のもと、皆様方の目線で議員一丸となり町勢復興に立ち向かう覚悟でありますので、更なるご指導をお願いいたしますとともに、共にこの厳しい状況を乗り越え、皆様が笑顔で迎えられる日の来ることを心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。